

こんな時だからこそ!!



高校入試を前にして ～君ひとりではない、あせり……たかぶり～

『入試が近づくと、友だちの勉強が気になってくる。「平気な顔しているからよほどの自信があるのだろう」とか「このごろ、何時ころまで勉強しているのだろうか」とか想像する。

自分はどうか。予定した計画は、いっこうに進まない。時間だけは机の前にすわっているが、能率は上がらない。「もし不合格になったらどうだろう」「同じ学校へ行く者全部が不合格ならよいが、自分ひとりが不合格になったら、どんなにはずかしいだろう」、こんなことを考えると勉強も手につかない。

これは一種のあせりの状態であり、高ぶりの状態である。だが大事^{だいじ}を前にした場合、どんな人にも起こることであって、受験生の全部が感じていることである。

日が迫る、時間が過ぎる、そして今までの勉強の結果を試される日が、いやでも近づくのである。それによって運命がきめられるのだから、普通の神経をもつ人間なら、気持ちが高ぶるのは当然である。

一日が短くて長く、長いようでまた短い。これは受験生だけでなく、親でも同じである。親は自分のことでないだけに、こどもよりハラハラしているものである。

受験期が近づいても、いっこうに案ずることもなく、あせりも高ぶりもないのは、よほど試験を見くびっているか、自信をもっているかである。見くびるのもよくないし、自信をもちすぎるのもよくない。見くびるのは、自分の力を過大視しているからである。やはり適度な緊張をして、ふさわしい準備をしておかねばならない。ただ、異常な状態にいる時だから、今までとちがった勉強を考える方がよい。

自分の興奮状態を知る方法がある。家族への接し方を考えてみるとよい。「テレビがやかましい」と言っておこり出し、「弟や妹がさわいだ」と言っはあたり散らしたりしていないか。これは心の中に、「自分の今のせっぱつまった苦しい気持ちが、わからないのか」との訴えと、「同情してほしい」との甘えがある。

「気が散るから静かにしてほしい」と言うのならわかる。そう言わなくても、家族は気にしているし、気を使っはれ物にさわっているようにしているのだ。

じっと観察すると、自分をとりまく家族の緊張状態がわかるだろう。それは感謝しなければならない心づかいであるが、それに対してわめいたり、つっけんどんになったりするのは、かなりの興奮状態になっていることをあらわしている。

家族は、自分を中心に動かねばならないとのわがままが心の底にある。むしろ、弟や妹を以前よりかわいがり、家の用事も進んでし、心配している親を慰めるくらいにしたい。受験前なのにいつもより親切に教えてくれたとか、遊んでくれたりすれば、弟妹は心から親切に感謝して、心から兄や姉の合格を祈ることであろう。

生涯にそう多くない心配をさせている親には「全力をつくしているから、そう心配することはないよ。たとえ不合格でも、自分の勉強には責任をもつから、気を落とさないでほしいよ。」と言えるくらいにしたい。

そこまで言えるこどもの人間的成長に、親は合格以上の喜びを感じてくれるだろう。家族に、このようなことを言うことで平静をとりもどせるし、その平静さがあれば、実力を十分に発揮することができるものである。』

いかがですか？みんなは受験生であると同時に、家族の一員であり、大枝中学生なのです。

しんどい今だからこそ、クラスの仲間と共に、自分を磨いてみませんか？